

令和 7 年度
教育行政 執行方針

奈井江町教育委員会

も く じ

1. 奈井江を識り、世界を識る 1
2. 他人を知り、違いを認め、切磋琢磨する 2
3. 得意なこと、好きなことを生涯続ける 3

1. 奈井江を識り、世界を識る

令和になり、タブレット型端末が教室に入ってきました。子どもたちが新しい時代に必要となる資質や能力を習得するための学びの方法にも変化が求められています。

- ・ 教師による一斉授業から、子ども主体の学び
- ・ 同じ教室での学びから、教室以外での学び

“令和の日本型学校教育、の推進です。

奈井江町のギガスクールの取り組みが始まって3年。これを更に推進するため、小中の校長、教員による先進地視察を行い、校内DX(校務のICT活用)も含めた推進を行うほか、奈井江小学校に新たに通級指導教室を開設して、勉強を苦手としている子どもたちを教室から切り出し、2～3名程度の少人数授業を行い、学習の定着を図っていきます。

公設塾ななかまでは、子どもたちの自学自習の定着を図ると共に好奇心を育む特別授業を行ってきましたが、中学校に上がるとスマホに依存する時間が長期化し、学習習慣の定着が薄れていることが分かりました。そこで今春より、公設塾ななかまを2.0にバージョンアップして、中学生を対象に夜間まで開設する塾に拡大し、放課後はもちろん、部活動終了後の自学自習もサポートしていきます。

また、校正が終わった社会科副読本ないえを活用し、自分たちが住むまちの豊かな自然や歴史、産業、暮らし、そして岡山県やフィンランド共和国といった友好都市について学び“奈井江を識り、世界を識る”を深めていきます。

2. 他人を知り、違いを認め、切磋琢磨する

教育関係者からも高い評価を受けている学校の夏期冬期の長期休業中に行う朝カツ事業を継続し、子どもたちの好奇心や探求心を育みます。新年度からは、中学生の部の ななかまも始まるので、中学生が自己実現の1つ手前“自分は何が好きで、何が得意なのかを探究する授業”を行います。

また、多様性の時代にあって自他の身体や権利を守るため、子どもたち一人ひとりが他人を受け入れる一方で、自分のことも自身でしっかりと守って行くことができるよう、性別の違いや障がいを含むマイノリティなど、身体や心の多様性、互いを尊重し合える共生社会への理解を進めるため、小中学生を対象とする包括的性教育講座や障がい理解に関する講座を実施し“他人を知り、違いを認め、切磋琢磨する”子どもたちを育んでいきます。

保護者や地域、学校関係者が連携、協働しながら議論を深め、子どもたち一人ひとりにとって個別最適な学びができる

環境を創っていくことが大切です。昨年度、学校運営協議会を創設し、9年間の学びのあり方についての議論の入口に立ちましたが、子どもたちのスマホ依存の深刻さを改善するための議論を優先してきましたので、迎える新年度を個別最適な学びの議論を始める元年としていきます。

加えて、奈井江町 教育ビジョンの前期4カ年が終わりを迎え、令和8年度より後期の期間に入っていきますので、3年前と同様、保護者や地域住民、教育関係者に留まらない各界各層の町民にお集まりを頂いて、現行ビジョンの検証と後期のビジョンについての意見交換を行い、必要な改訂を行っていきます。

3. 得意なこと、好きなことを生涯続ける

小中、そして図書館に同一の図書システムが導入になりましたので、3施設の連携による読書活動の推進を行います。

また、コロナ過が明け、体育館のトレーニング機器の更新や トレーナーによる指導教室の開催により利用人数が回復してきたトレーニングルームなどにエアコンを設置し、運動環境の改善を図ります。加えて、企業から寄せられた労働災害防止ニーズを捉えた転倒防止講座など、職域での運動教室を拡充していきます。

学校の働き方改革に起因する部活動改革により、休日の部活動などの段階的な地域移行が求められています。保護者はもちろん、奈井江町スポーツ協会や文化連盟など、関係団体とも協議を行いながら、広域的な視点も持って まちの方向性を検討していきます。

文化ホールでは“音楽のまち奈井江町、を推進する地域おこし協力隊と共に様々なコンサート、音楽イベントに取り組み、文化とスポーツの両面から、町民の皆さんが“得意なこと、好きなことを生涯続ける、ことをサポートしていきます。

＊

新たに始まる奈井江町第 7 期まちづくり計画では、交流人口が増えていくことも大きなテーマとなっています。教育委員はもちろん、各界各層の町民の皆さんとたくさんの議論を行い、町外からも注目される教育行政の推進に努めて参ります。

